

同友 やまがた

よい会社をつくろう／よい経営者になろう／よい経営環境をつくろう

9
2015
SEPTEMBER

山形県中小企業家同友会
月刊 同友
やまがた

30
th



2015年役員研修会

「同友会で何を学び、どう実践をしていくか」

地域活性化セミナー inやまがた

中小企業の活力で、もっと元気な山形に

「第20期経営指針をつくる会」修了

山形同友会
創立30周年！
より地域に
必要な存在へ！！

2015年度スローガン

「同友会で何を学び、どう実践をしていくか」

山形同友会は、7月28日に2015年度役員研修会を開催し、理事を中心に全支部から支部長、幹事が参加。講師に中同協幹事長 広浜泰久氏(㈱ヒロハマ 代表取締役会長)を迎え、1992年に千葉同友会に入会してから現在まで、同友会の学びや気づきの実践、同友会の醍醐味をお話していただきました。グループ討論とおし、困難に立ち向かう同友会型企業づくり、同友会役員の役割を学びました。



同友会でもらったメリットは誰にも負けない

真面目に同友会に参加し、経営労働委員会の副委員長、理事、副代表理事、入会して5年目には代表理事になりました。13年間代表理事を担当し、2007年に中同協の幹事長の声がかかった時、同友会からどれだけのメリットをもたらしたかを考えました。「同友会でもらったメリットは誰にも負けない」と、幹事長を引き受けたといいます。



同友会での「学びや気づきの実践」と「醍醐味の享受」

同友会でのモットーを紹介。そのひとつは役員になるとたくさん時間が取られるが、取られた以上のものを必ず持ち帰る。学びや気づきをメモし、重要な点を自社の課題として書き出す。さらに課題毎の行動をスケジュール表に書き出す。「ここまでやって初めて学びになり、実践につながる」。もう一つは屈託なく運動をすること。役員になると企業づくり、同友会づくり、地域づくりに関わる醍醐味があり、全部享受する。いかに自分のモノにしているか、それが自分の成長に役に立ちました。

「三つの目的」と自社の発展のために

同友会の3つの目的のマトリックス図をもとに、企業づくりと運動の展開を紹介しました。「よい会社をつくら

う」には、労使見解と経営指針は外せません。「労使見解」を読むコツとして、社員一人ひとりの顔を思い浮かべながら読む。二つ目が、ワンフレーズごと自社でやっているかどうか思い起こしながら読むことを紹介しました。

人間尊重の経営を一生懸命やるだけでは難しく、社会性・人間性・科学性すべてのレベルアップが必要で、確実にレベルアップしていくには、「経営指針」だと強調。しかし、作成してもうまくいかない理由に、経営理念を実現するための基本方針がずれている。さらに経営方針達成の計画になっていない。次に労使の信頼関係が出来ていないと指摘します。

全社一丸経営を打ち出すには、最終的には社員一人ひとりが計画を立て、計画の内容、実施した内容、結果、これからの行動とPDCAが回るような仕組みづくりと、時間がかかるがそこまで徹底すると必ず成果がでると語ります。

中小企業の社会的役割

「よい経営環境をめざそう」は、3つの目的の総合実践です。運動を展開することで関心が高まり、行政や周りの団体から同友会への認知度が上がっています。中小企業家、中小企業に誇りをもって働いていることが周知されていきます。同友会はその運動の先頭に立つ役割があり、今、そのポジションに立っているということです。

国民の7割が働いているのが中小企業であり、中小企業を中心にならなければならない。そういう勉強の機会がある同友会は特別で、その先頭が我々自身であると感じています。

全ての人がその素晴らしさを発揮できる社会の実現のためにも、会員を増やしましょうとまとめました。

地域活性化セミナー in やまがた 中小企業の活力で、もっと元気な山形に

山形同友会は、8月5日に、「地域活性化セミナー in やまがた」を遊学館で開催しました。

参加者は会員企業はじめ、行政、議員、金融機関、他団体などの67名が参加しました。今回は中小企業振興条例について、制定された市町村の条例を活用することにより、地域の発展に繋がっている事例などを紹介しました。



中小企業振興条例を理解していない方々に、より解りやすく伝えていこうという趣旨でパネルディスカッション形式による学習会にしました。

コーディネーターに山形大学エンロールマネジメント 教授 福島真司氏、パネリストとして、米沢市役所商工課 課長補佐 石黒龍実氏、天童市議会議員 鈴木照一氏、きらやか銀行 営業本部長 高橋幹男氏、(有)グローバル物流 代表取締役 奥山正樹氏が壇上に立ち、それぞれの立場における現状の問題点などを出していただきました。

人口の減少による市場の縮小に対して、自治体がサポートし中小企業を活性化していくことが必要であると提案されました。

しかし、私たち中小企業は会社を維持発展させる責任があります。行政、金融機関、大学と問題点を共有して地域を活性化していくことが必要です。雇用を維持し、税金を納め、それを企業が行うことにより地域が活性化していきます。これが中小企業振興条例の意義であり、将来のビジョンをお互いに持って進んでいかなければなりません。

子どもがいる社員には子育てをしやすい環境をつくり、給与も多く支給する努力を、私たちはしていかなければなりません。

中小企業振興条例は地域の経営指針書といえます。ですから地域、企業、社員が三方良しを考え、実践して行かなければなりません。この条例は地域を活性化するための振興策です。新しい物を生み出し、イノベーションが生まれ、市場ができる。みんなで問題意識を共有し地域を活性化していきましょう。

最後に参加された方々のアンケートに、「行政の役割を再認識し、中小企業振興条例について持ち帰り検討したい」「地域を強く意識することが出来た」「企業経営とは地域づくりである」などの意見や感想をいただきました。

元気な山形をめざし、持続可能な地域にしていくためには、大多数を占めている中小企業・小規模企業が主体的な努力により経営を発展させていく必要があります。

今後の中小企業の役割を明確にした憲章を広く普及し、持続可能な地域を築いていくために、各自自治体の「中小企業振興条例」制定運動を広げていきます。



「第20期経営指針をつくる会」修了

7月25日、2月に開講した「第20期経営指針をつくる会」の発表会がホテルシンフォニーに於いて行われました。今期の受講生8名が次々と出来立ての経営指針書を発表しました。修了された皆さんの感想を紹介いたします。



足りないものを見つけ出した

私が事業承継し、弊社の経営をするようになって間もなく三年になります。日々の仕事に追われる中で、「何か足りない」「ただ仕事をこなしている」と思っていたのは私だけではなく、共に仕事に携わっている社員の間も同じだったのではないかと思います。

今回「経営指針をつくる会」を受講し、経営者として、また企業としてその「足りないもの」を見つけ出すことができました。その「足りないもの」とは経営者の考え方や知識、企業活動の目的や目指すもの、内部や外部の環境を把握しどう対応するかなど、頭の中にある曖昧な考えを成文化するということでした。紆余曲折はありましたが、理念から方針・戦略・計画まで具体的に落とし込むことで、進むべき道と今すべきことをはっきりと示すことができたと思っております。

「会社は社長の器より大きくはならない」という言葉を

(有)成澤鉄工所 代表取締役 成澤克志

度々聞くことがありましたが、その通りだと実感した会でもありました。自分を律し、自分が変わらなければ、また目標も計画も示すことのできない経営者に社員がついていけないはずもないと痛感しました。さらに、様々な講義や修了生の方々のお話を聞く中で、改めて企業は「人」ということを再認識し、対等な労使関係についてもいろいろと考えさせられました。

そして、経営指針はただあるだけでは絵に描いた餅で、社員と共有し、将来を見据えながら、年度ごとに計画を練り直し、目標を達成するために計画一つ一つを実行していかななくてはなんの意味もないと思いました。

今後、経営指針をもとにお客様にはもちろん、社員、社員の家族、取引先や地域にまでも貢献できる企業を目指して経営に邁進していきます。

仕事に誇りを持つことができた

(株)木村ぶつだん 専務取締役 木村洋祐



「兎に角考えて考えて、考え続けているとパッと生まれるんだよ。そうゆうものだ。」先輩が話すこの言葉の意味も分からずに受講させていただいた経営指針。第1講までの提出物の量、質に私は愕然としました。「足を踏み入れて良い所ではなかった」、「俺がこんなことできる訳がない。」今思えば言い訳なのですが、半年前の私は受講したことを後悔しました。

何名かの方が「今年の指針は甘い」と仰っておりまして。私は心の中で思いました。「これで甘いのか？でも良かった」と。経営者になる覚悟を作りにきた私は、まだまだ逃げられるだけ逃げようとしていました。お仏壇や仏具、神具を取り扱う店の四代目として生まれただけでやりたくて勤

めた訳ではない。

そんな或る日のグループ討論の際「君、自分の仕事を後ろめたいと思っていない？」との質問がありました。自分でも認識していない感覚。正直かなり戸惑いましたし、心に刺さる言葉でした。思い起こせば、小学生の頃から言われていた「お前の家は人が死ぬと儲かる商売だ」という言葉が脳裏に鮮明に浮かびました。私のトラウマの様な気持ちが浮き彫りにされた瞬間でした。講義後、新たに出された宿題にすら手が着かず一晩考え続けました。大分落ち込み逃げようとする自分が居たことも確かです。

それでも今、私は断言できます。「指針を受講して良かった」と。経営する為にするべきことを知ることができたのは大きな収穫ですが、それ以上に大きな気付きを得ることができたからです。それは「自身の仕事に誇りを持つことができた」こと。まだ始まったばかりの道ですが、私は指針を通じて得た心を燃やし、頭を使い続け、これから強く「商売人」として歩み続けたいと思います。多くの方に感謝申し上げます。

私は2004年3月にタイル工事業として創業し、お蔭様で2013年5月に法人化し現在に至っております。創業当時から、がむしゃらに働いてきましたが、私自身経営の知識を持っておらず、このままでいいのか？と疑問に思うようになりました。これまで建築不況、消費税増税、東日本大震災など色々な事を経験しました。周りの人々に助けられて継続することが出来ました。社員さんとその家族も増え、社会的責任も大きくなり自身が本当に経営を学ばなければと感じ、この度経営指針を受講致しました。

まず、自分は決算書の見方も解らない事に気づきました。売上は数字は分かるのですが、内容がさっぱり理解できず、初めて聞く用語もありました。決算書から逃げていたことは言うまでもありません。この機会が無ければ、このまま決算書を見ないで経営を続けていたに違いありません。まだまだ

完璧ではありませんが、本当に良かったと感じています。

経営理念の作成は、とても苦労しました。自社がやりたいことは何か？何の為に働くのか？なぜそんな当たり前のことを考えなければならないのか理解に苦しみました。自分では納得した理念を発表しても掘り下げ不足の為、伝わる説明が出来ず、「社員ともっと話し合え」「もっとつきつめる」の助言の繰り返しでしたが、社員さんや仕事に向き合う良い機会になりました。

今回、経営指針を受講して仕事のあり方や社員さんの気持ちが少しでも理解出来た事は大変有りがたいと思います。これからも社員さんや、家族との話し合いを大事にし、社員一同世の中に必要とされる様に務めてまいります。最後に時間を割いて助言して下さいました助言者の皆様には本当に感謝いたします。有難うございました。

進むべき方向を見いだして

高橋家具センター 高橋 堅

私は家具販売業をメインとした家業の後継者として商売をしている中で、漠然とした不安を抱えていました。自分の商売をこれからも継続していけるのだろうか？また、自社がこれから力を入れるべき商品やサービス、強みとすべきは何なのか？地域密着企業としてやってきた当社ですが、人口減少や大規模競合店の台頭などプラス要素は見当たりません。経営指針を受講しようと思ったのは、この状態を整理して、進むべき方向を自分なりに見つけてみたいと思ったからです。

指針の受講中は嫌でも自社のあらゆる面と向き合うことになりました。一番苦労したのが科学性の部分。最初、あなたは家具を通してお客様に何を提供しているのかという問いに答えられませんでした。しかし、ここを突き詰めていく事で自社の進んでいきたい方向が見えてきました。当社が提供したいのはお客様それぞれの生活スタイル「住まい方」に

あった快適空間の提供です。このために家具やインテリア、また簡単な住宅リフォームを行っていききたい。そして当社が一番守りたいものは地元大石田を中心とした高齢者世帯の方々の暮らしなのだと思い付いたのです。

これまで四十五年間も商売をさせていただいた地域とお客様に感謝し、暮らしを支える仕事がしたいと思っています。

指針を受ける中で先輩方には親身になって下さりたくさんのアドバイスを頂きました。本当に有難うございました。まだ正直消化しきれていませんし、自社の科学性ももっと精査が必要です。ですが自分なりに苦労して作った経営指針書を携えて、まず始める事からスタートします。

最後にこの受講で私が得る事のできた一番の財産は一緒に指針を受けた仲間の人々と先輩方との出会いです。このご縁を大事にして商売繁盛を目指し頑張っていきたいと思っています。

決意のもとに経営指針書を作成

晃永運輸(株) 統括運行管理者 野口 雅弘

経営者になるということは大変なことだと改めて教えて頂きました。計画を立て、利益を上げて、給料を配当する。そこに少しでも楽しさや生甲斐があればいい、集う社員の生活が平均的であればいいと考えていたほどでした。

しかし、同友会の学びは根本的に違っていました。労使一体となる経営にするには、自分たちの会社の存在意義、社員と共に成長する役割、そして明確な意志を持った社会貢献と、どれをとっても当たり前であることだけど当たり前前にできていないことを痛感させられました。

その中で自分の場合は何で事業を展開しているのかという点を一番悩んでいました。後継者だから事業承継するというのではなく、自分の決意のもとに経営指針書を成文化することによって、自分自身が経営者としての第一歩を踏み出せるのではないかと考え始めました。経営指針書は形や格好

ではなく実践してこそ、その真価が問われていくのだと、多くの助言者の方から教えて頂きました。同友会の学びには必ず実践することが描かれています。確かにそうです。自分たちの会社は自分たちしかできないのだということを教えていただきました。誰も助けてはくれません。自分たちが描く未来像に意義を設け、仲間と共に成長し、しあわせになる。この実践が経営として人間の成長の根底にあれば、失敗を恐れず前に進めるはずだと信じています。

しかし、受講期間中は助言者の皆様の意見や質問が痛いところをついてくるので、一時は汗が止まらないこともありましたが、でも感謝しております。これからは同期の仲間とこの経営指針書を実践し、助言者となり、新たな気づきのもと、さらなる成長ができるかもしれない自分にも、社員にも期待して、これからの人生を楽しんでいきたいと考えます。

「共に学び、共に育つ」を実践し、 人がいきいきと輝く企業をつくろう

日時 2015年
11月19日(木) 13:30開会～20:30閉会
20日(金) 9:00開会～12:15閉会

会場 **ホテルメトロポリタン山形**
〒990-0039 山形県山形市香澄町1-1-1 TEL023-628-1111

参加費 **15,000円(宿泊費別)**

【タイムスケジュール】

- 1日目
12:30～ 受付開始
13:30～ 開会・全体会(問題提起)
14:20～ 分科会開始
17:50～ 分科会終了・休憩
18:30～ 懇親パーティ
20:30 懇親パーティ終了
- 2日目
9:00～ 全体会
9:10～ 記念講演
10:10～ 休憩
10:20～ グループ討論
11:45～ 補足報告
12:00～ まとめ 12:15 閉会

1日目 分科会

○第1分科会(宮城)

テーマ 大震災からの復興“地域の創造は自社のイノベーションから”～社員と共につくりあげた“10年先の経営計画”～
報告者 住研工業(株) 代表取締役 斉藤 充氏(宮城同友会)

○第2分科会(大阪)

テーマ 経営者の役割は地域教育に直結するキャリア支援教育を通じての気づきと社員育成
報告者 (株)エムツープレスト 代表取締役 増本 晃明氏(大阪同友会)
長谷川金網(株) 代表取締役 長谷川 真司氏(大阪同友会)

○第3分科会(山形)

テーマ 車好きでない私がクルマ屋を継いだわけ～3つの期待に応えたい～
報告者 (有)大山ボデー 専務取締役 佐藤 知志氏(山形同友会)

2日目 記念講演

テーマ 社員の“社会力”育てが中小企業と社会を変える

講師 筑波大学名誉教授 門脇 厚司氏(美浦村教育長)

実行委員長ごあいさつ



田宮印刷(株)
常務取締役
阿部和人

2015年11月19日(木)～20日(金)に山形において第27回社員教育活動全国研修・交流会が開催されます。

県外から150名の同友会の仲間をお迎えして「共に学び、共に育つを実践し、人がいきいきと輝く企業をつくろう」をメインテーマに学びあいます。

今年は「中小企業における労使関係の見解」(略称「労使見解」)を発表して40年を迎えます。労使見解をベースとした「人

を生かす経営」は、企業経営と地域の発展にとってますます貴重な意義を持っています。

この度の開催目的は全国の社員教育活動の実践事例、成果、教訓を交流し、

①「人を生かす経営」の実践を広げ、社員との更なる信頼関係構築につなげます。

②人口減少・求人難に揺るがない、人が生き生きと育つ企業づくりにつなげます。

③持続可能な地域社会をめざし、同友会の共同求人・社員教育活動の前進につなげます。

を掲げました。

また開催地山形の独自の目的として

①山形同友会創立30周年の記念事業として取り組みます。

②社員教育の大切さを再認識し課題を共有しあい、課題解決に向かいます。

③経営者の自己変革への姿勢と実践で、成長意欲の高い社風をめざします。

を掲げております。

現在は実行委員会を立ち上げ準備を進めております。

全県から集結し、2日間社員教育について深く学びあい、

社員がいきいきと輝く企業を目指してまいります。

皆様のご参加をお願い致します。

9月例会のご案内

・どの支部の例会にも参加できます。・月に一度は参加しましょう。

山形支部

社員から学んだ人材育成 ～任せることで人は育つ～

2015.9.17(木) 18:30～21:00

場所: 山形ビッグウイング 4F 研修室
山形市平久保100 ☎023-635-3100

報告者: (株)東北テレネット 代表取締役 長瀬洋一氏

社員は社長の指示で動く強いトップダウン経営の会社の社長が、突然倒れたらどうなるか?そんな体験をした長瀬氏。「なぜ、こんなことになるのか」と自分のことしか考えられず悶々とした日々を過ごしました。会社に復帰すると、今度は社員の仕事にイライラが募るばかり。ある時、社員から「任せると言っておきながら口を出す」と言われ、「任せることで人は育つ」と頭では分かっているが我慢できずに口を出し、社員の成長を止めている自分に気づきます。任せて育てようと思戦苦闘の中、我流の経営から脱却するために経営指針を作成。

現在、経営指針書を基に社員と方向性を共有し、仕組みづくりに奮闘する長瀬社長の報告に学び合います。

置賜支部

人を生かし会社の未来をつくる

2015.9.18(金)18:30～

場所: 伝国の社
米沢市丸の内1-2-1 ☎0238-26-8000

報告者: (有)笹木製作所 代表取締役 笹木浩二氏

メーカーの製造部門の海外移転が進んで売上がダウンする中、現場リーダーの社員が退職。さらに次のリーダーも退職。この繰り返しの悩んでいた時、同友会に入会。

社員共育委員会で学び、社員の資質ではなく、自分に問題があったことに気づきます。そして、二年前に経営指針書を作成。実践に取り組み過程で、社員さんの労働環境が悪化し、問題が起こります。仕組みづくりの必要性を痛感した笹木氏は試行錯誤でPDCAを回しながら課題の解決に取り組み、不良品・残業時間と大幅に改善されてきました。

理念の「幸せづくりが出来る会社」をめざして社員さんと一緒にチャレンジする笹木氏の実践報告をもとに、組織づくりを考え合います。

さくらんぼ支部

酒づくりは人づくり ～経営者の人間的成長をめざして～

2015.9.17(木) 18:30～21:00

場所: タントクルセンター 2F
東根市中央1-5-1 ☎0237-43-1155

報告者: 六歌仙酒造協業組合 代表理事 松岡茂暎氏

北村山地区の5つの酒蔵が経営の合理化等を目的に、S47年山形銘醸(株)を設立し、S60年に製造部門として協業組合を設立しました。山形銘醸(株)は、H4年に(株)六歌仙に社名変更し、H9年に松岡茂暎氏が代表取締役に就任、H23年に息子の松岡茂和氏が後継し、松岡氏は現在、六歌仙酒造協業組合の代表理事を務めます。松岡氏は東京農業大学醸造学科を卒業後、酒問屋で修業を積み、S45年25歳で実家の松岡酒造(株)に戻りました。同時に社長に就任します。また、S54年、(株)田村電気村山製作所(原三光電気(株))に取締役として入社。若くして経営者になり、社員に納得して働いてもらえるか。「頼む」と言って何人が動いてくれるかが、経営者の実力と語ります。「わかってもらうまで、何回も同じことを教えた」「本気さは、社員に伝わる」と、社員の成長が企業の成長につながると強調。酒づくりは天職、そして酒づくりは自分を含めて人づくりと語る、松岡氏の経営体験に学びます。

寒河江支部

経営者が変われば社員の人生が変わる ～ワークライフミックスをめざして～

2015.9.24(木) 19:00～

場所: 寒河江市技術交流プラザ
寒河江市中央工業団地153-1 ☎0237-86-1991

報告者: Hair with Water ディレクター 赤塚治美氏

2006年に同友会へ入会した赤塚氏は創業者の母親が亡くなり、方向性を考えようと経営指針を作成。経営理念に掲げたサロンをめざして社員と実践を始めますが、思うように進まない。それでも共に歩み成長できるサロンでありたいと、自ら学びながら社員と向き合います。格闘の日々の中で、自分に原因があったことを痛感。そして社員との関わり方が変わるとサロンも変化してきました。

かつて師弟関係だった美容師業は修行の世界。技術習得のために閉店後の練習は当たり前、またお客さん優先で食事の時間も不規則になる等、労働環境の問題もあります。そんな業界で右腕となった店長と仕事をとおしてみんなが幸せになれるサロンをめざす赤塚氏の報告です。社員との信頼関係を構築するための取り組みを考え合う例会です。

庄内支部

電気工事会社が考える “省エネ”を“庄エネ”へ

2015.9.18(金)18:30～21:00

場所: 酒田勤労者福祉センター
酒田市緑町19-10 ☎0234-26-2644

報告者: 荘内電気設備(株) 代表取締役 阿部敦氏

平成10年に会社を引き継いだ阿部社長。電気工事会社の業務の中で、“省エネ”というものが、「ただの商売道具であり“社会に貢献した行動”に移せていない」と感じていました。そんな中、東日本大震災をきっかけとして、“電気”のインフラの今後をどうするかを深く考えました。そして、自社がすべきこととして、“庄エネ”という言葉にたどり着きます。「庄エネ」とは何か、またそこまでたどり着いた過程に、自社の新たな強みを作り出す考え方を学びます。阿部社長のお話の後、グループ討論で「自社の存在が目される企業」について考えます。

新庄最上支部

「管理職はつらいよ」 ～超個性派集団を「目的思考」がまとめる～

2015.9.29(火)18:15～

場所: 最上広域交流センター「ゆめりあ」
新庄市多門町1-2 ☎0233-28-8888

報告者: (株)フロッツ 取締役 五十嵐久仁子氏

広告デザイナーとして仙台のデザイン会社に5年間勤務し、その後田宮印刷(株)仙台支店に契約社員として入社。仙台支店の管理職の後、本社(山形)の社員30名がいるデザイン部門統括として勤務。本社では「あの人は…」とお荷物部門に見られている現実が待っていました。そんな中でも数値指標を取り入れ、社員一人ひとりと向き合い、意識改革、組織改革、管理職育成に取り組みます。そうしてやっと組織らしくなった矢先、子会社独立の話があり「不採算部門のリストラか」と激震が走ります。社員の不安払拭のため、田宮の前頭業との想いが込められた、FLOT(Frontal Lobe of Tamiya)と名付け、会社づくりに直接参画できる楽しさを幹部社員と一緒に体感しています。お客様の価値を創造する仕事に誇りを持ち、「FLOTで働けてよかった」といえる会社、自己成長を楽しめる会社にしたと語る五十嵐さんの報告です。

第5回理事会報告

◆日時:8月12日(水)午後2時~午後4時 ◆会場:山形ビッグウイング 402会議室 ◆議長:後藤副代表理事
 ◆出席:(敬称略)青柳等、阿部和人、阿部秀顕、安藤昌則、伊藤誠、越前屋忍、奥山正樹、川合勝芳、菊池幸生、工藤則行、小林敏郎、後藤智樹、西塔秀幸、菅原成秋、玉津弘之、若木義寛、柴田慶一(新庄最上支部)事務局伊藤、矢作、高橋(理事17名出席)

■開会挨拶(西塔代表理事)

中小企業家しんぶん(8月15日号)より、時潮創流の記事を紹介。

■報告事項

- ①中同協全国総会(7/9~10 岩手) 17名参加
- ②労働環境改善学習会(7/17 社員共育委員会主催 27名参加)(阿部理事)
労働局の講義を受け、グループ討論で長時間労働等の環境改善の取り組みを話しあった。
- ③「第20期経営指針つくる会」(経営指針委員会7/25発表会 8名修了)(菊池理事)
条件つきではあったが受講生全員が修了。課題は実践し結果を出していくこと。これまでの修了生の業績のデータ化を検討していると報告した。
- ④大学訪問(7/31 共同求人委員会)(玉津理事)
第2期低学年インターンシップ開始(18社 学生28名受入)
第1回合同企業説明会を10/15に開催する。目標20社で、参加要請があった。
- ⑤地域活性化セミナーinやまがた(地域活性化委員会8/5 67名参加)(越前屋理事)
- ⑥2015年度 第1四半期、7月月次決算報告(矢作事務局次長)
- ⑦井上事務局員の退職(8月21日付)の報告(西塔代表理事)

■承認事項(入・退会承認)

- 1)マイナンバー制度学習会の件
西塔代表理事より、収支報告と講師謝礼の提案があり、承認された。
- 2)入退会承認 入会5名、退会4名 8月12日現在会員数 438名

■討議事項

(継続議案)

議題1:支部所属の見直しについて

西塔代表理事より、山形支部、寒河江支部、さくらんぼ支部の8月幹事会で、討議していると経過報告があった。

議題2:同友会説明用DVDの作成の件

安藤理事より、テストケースとして、リニューアル予定の新会員DVDをネット上にアップし、PC・タブレット・スマホ等で見られるようにすることが提案され承認された。方法は別途検討し、このテストツールを活用する方が増え、成果が上がるようであれば、次年度再検討する。(討議事項)

議題3:2015年度役員研修会のまとめ

西塔代表理事より、参加者の報告があり、目標50名を達成できなかったが、新支部を除く支部長全員が参加したことは評価できる。講義、グループ討論の成果として、「経営指針をつくりたい」という回答もあり、企業づくりに関して学べた点ではよかった。また、同友会の原点を学び、現実的な討論ができた。次年度の課題として、半年前より実行委員会を

つくり、参加動員等を取り組むことが提案され承認された。

議題5:会員増強の取り組みについて

安藤理事より、7月理事会以降の取り組みの報告があった。置賜、庄内支部は、例会ワンゲスト運動の取り組みで月目標を達成した。

各支部の活動報告と同友会の特長・魅力について意見交換をし、学べる例会づくりを基本とし、特に役員は経営体験を自分の言葉で伝えることや、経営課題に合わせた委員会の活動の紹介、ビジネスの連携など、同友会の魅力を語っていくことなどが出された。

10月増強月間は、これまでどおり、紹介者のリストアップ、クロージング報告、「同友会に学んで(私は)こう変わった」の原稿を願ひし、目標達成に向けて、例会へのお誘い、入会を勧めることを確認した。増強ツールについては、次回の検討課題となった。

議題6:日本政策金融公庫山形支店からの申し入れの件

西塔代表理事より、9月2日の常任理事会で、顔合わせを兼ねて意見交換することが決まった。なお、地域活性化委員長にも参加してもらった。

■経営体験報告 報告者:田宮印刷(株) 常務取締役 阿部和人氏

座長:越前屋忍氏

*次回報告者(敬称略)

月	報告者	座長
9月	菅原茂秋氏	
10月	西塔秀幸氏	

■その他

1)中同協関連の会議、全国行事について

- ①経営労働問題全国交流会(8/20~21 鳥取)菊池氏、野口氏、成澤氏
- ②中同協組織強化・広報・情報化全国交流会(8/26~27 東京)西塔氏(1日目)、安藤氏
- ③中同協・社員共育・共同求人合同委員会(8/27 東京)阿部(和)氏、玉津氏、事務局伊藤
- ④第43回青年経営者交流会(9/10~11 山梨)阿部(和)氏、佐藤(知)氏、事務局高橋
- ⑤第18回障害者問題全国交流会(10/22~23 愛媛)玉津氏
- ⑥中同協役員研修会(9/17~18 京都)
- ⑦北海道東北ブロック支部長・地区会長交流会(10/8~9 秋田)
目標10名 西塔代表理事、青柳副代表理事、菅原副代表理事 出席
- ⑧第27回社員教育活動全国研修・交流会(11/19~20) 山形同友会設営

2)事務局夏季休暇について(8/13~16 内13,14は有休休暇)

3)第6回理事会日程

●日時:9月9日(水)14:00~16:00

●会場:ビッグウイング 4F 403会議室

■開会挨拶

新会員紹介

◎竹村 直人氏

合同会社NTK
業種 電気通信工事業
さくらんぼ支部

◎若月 秀一氏

有若月木工所 取締役
業種 建具製造
置賜支部

◎堀口 大介氏

有堀口建築 専務取締役
業種 建設業
庄内支部

◎難波 裕朋氏

ナンバ建設(株) 専務取締役
業種 建設業
庄内支部

◎三浦 正信氏

有うまい・たのしい庄内 代表取締役
業種 小売業
庄内支部

支部・会員名・企業名・役職変更

- (株)ジョインセレモニー(山形支部)
係長 大場 純一氏⇒課長に変更
- (株)アルファ・コム(山形支部)
専務取締役 佐藤 淳氏⇒代表取締役社長に変更
- 黒沼畜産(株)(寒河江支部)
代表取締役 黒沼 望氏⇒王様の焼肉(株)に変更
- トヨタライン(株)(さくらんぼ支部)
常務取締役 齋藤 和彦氏⇒代表取締役社長に変更

同友やまがた9月号(2015年9月1日発行/通巻270号)

From Editor

★8/15号の中小企業家しんぶんをお読みいただきましたか。今年、97歳になる大田堯先生との鼎談会、よくぞ、中同協で特集号を組んでいただきました。一つひとつの言葉を噛み締めて読みました。いつか山形にお呼びしたいと思いつつながら、4年前にも、映画『かすかな光へ』が制作されたとき、高島町で紹介されている内容で、上映会を提案しましたが実現できませんでした。★10年前、山形で「社員教育活動全国研修・交流会」を開催したことがきっかけで、同友会らしい社員教育活動をめざしてきました。学習資料として、大田先生の著書「はらべこあおむしと学習権」も活用しました。エリックカールの有名な絵本で、卵からかえった小さなあおむしが葉っぱも果物も食べつくし、どんどん

太ってやがて蛹から綺麗な蝶になるお話です。★教育と学習権がどんな繋がりがあるのか。教育の概念がガラリと変わりました。あらゆる生き物は、変わるもの。他人の力ではなく、自ら変わる力を持っている。学習権は、この自己創出力に深く根ざすものだというのです。★同友会で仕事が終わってから夜遅くまで、経営者も社員も一緒に参加するのは何故でしょうか。多くの人の学び合いに、なぜ、こんなにワクワクするのでしょうか。人との関わりあい、科学反応を起こし、心が動き、フツフツと湧き出てくるものを感じるからです。人間らしさを追求し続ける同友会だからこそできること。新たな課題も盛り込まれた特集を深く読み解いていただきたいものです。(由)



“知り合い、学び合い、援け合い”
山形県中小企業家同友会

〒990-2461 山形市南館三丁目26-26 スタジオ・アヴァン 102号
TEL(023)645-5500 FAX(023)645-5583
URL:http://yamagata.doyu.jp/ E-mail:info@yamagata-doyu.jp